

保幼小中連携を通した架け橋期の教育の充実 ～ 保幼小連携小学校体験の充実と円滑な実施 ～

那珂市



本市では小中一貫教育の理念の下、幼児教育から小学校、中学校教育への円滑な接続を目的として那珂市保幼小中連携協議会を開催している。架け橋期の教育の、より一層の充実を目指した保幼小連携小学校体験は、活動内容の充実と円滑な実施へと進展している。

■「保幼小連携小学校体験の充実」

※ 那珂市内唯一の公立幼稚園「ひまわり幼稚園」がセンター的機能を担う

○ 小学校訪問（1学期）

- ・ひまわり幼稚園が市内各小学校を訪問する日程を市内幼児教育施設と連絡・調整する。
各小学校と訪問者数を共有し、合同学校訪問を実施する。

○ 小学校授業体験（夏季休業中）

- ・市内全小学校が授業体験実施日を設定する。ひまわり幼稚園が市内幼児教育施設と連絡・調整を行い、各学校との来校者数の共有後、授業体験を実施する。

○ 小学校給食体験（2学期）

- ・ひまわり幼稚園が各小学校での給食体験の日程を市内幼児教育施設と共有する。各学校と体験者数を共有後、給食体験を実施する。

○ 小学校体験（3学期）

- ・市内全小学校が新入児保護者説明会と同日に小学校体験を実施する。ひまわり幼稚園が市内幼児教育施設と連絡・調整を行い、合同で体験に参加する。



〈園児の小学校授業体験の様子〉

■「保幼小連携小学校体験の円滑な実施に向けて」

○ 円滑な実施に向けた協議会の開催

- ・那珂市保幼小中連携協議会で、小学校体験の円滑な実施に向けた協議を実施。市内保幼小中の代表者で協議・共有を図ったことで、円滑な実施が実現した。

○ 小学校体験実施までの手順の整備

- ① ひまわり幼稚園と市立各小学校が連絡・調整
- ② ひまわり幼稚園が文書を作成し、市教委へ
- ③ ひまわり幼稚園から市内幼児教育施設へ、市教委から市内各小学校へ文書を発出
- ④ ひまわり幼稚園と市内幼児教育施設が連絡・調整
- ⑤ ひまわり幼稚園と市立各小学校が情報共有

1 1学期の保幼小連携小学校訪問について

那珂市立各小学校が訪問可能日を設定（2～3日）



教務主任会で訪問日を取りまとめる（共有データ活用）



※各小学校の訪問可能日の重複を避ける

共有データをひまわり幼稚園と共有



ひまわり幼稚園が各小学校の訪問日を決定し文書作成



ひまわり幼稚園から
那珂市内幼児教育施設へ文書を発出

指導室が文書を起案

指導室から各小学校へ文書を発出



※指導室が市外幼児教育施設に通園させている保護者向けに、広報なか、那珂市HPで周知

那珂市内各幼児教育施設は、ひまわり幼稚園に申込み



ひまわり幼稚園が各幼児教育施設の訪問園児数を各小学校と共有

那珂市保幼小中連携協議会は発足より6年目となり、保幼小中連携は確実に進展している。今年度から実施している、那珂市立ひまわり幼稚園がセンター的機能を担う保幼小連携小学校体験における、成果と課題も見えてきた。より一層の充実と円滑な実施に向けた協議を繰り返し、保幼小中が一体となった架け橋期の教育の充実につなげる。

保育参観と小学校授業参観の取組を通して

桜川市

概要・・・幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の職員を対象とした幼児教育と小学校教育の接続に関して、保育参観や授業参観を開催することにより、桜川市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進する。また、アドバイザー派遣を利用した研修会を開催することで、具体的な架け橋期カリキュラムについて協議することで、架け橋期についての理解を深める。

■ 授業参観

小学校1・2年生の授業参観より

参加者 公立こ：1名、私立幼保：2名、私立保：3名、小学校・義務教育学校：9名

<児童の様子>

- ・落ち着いて授業を受けている様子があり、幼児期からの成長を感じた。
- ・タブレットの導入により、授業の進め方が以前と違っているが、対応している児童の姿があった。

<教員の様子>

- ・児童の考えや発言に対して、共感的な言葉かけや寄り添う姿があり、信頼関係づくりにつながっている。
- ・児童の話をよく聞いている姿があり、児童はのびのびと発言ができる環境づくりになっていた。

<検討事項>

- ・タブレットの導入により、タブレットで文字を入力したり、書いたりする機会が以前と比べ増加している。それにより、鉛筆の持ち方や文字の指導はどうなっているのか？



©桜川市

年長クラスの保育参観より

参加者 公立こ：1名、私立幼保：2名、私立保：3名、小学校・義務教育学校：9名

<園児の様子>

- ・給食の準備や絵の具の片付けなど、自分でできることが多いことが分かった。
- ・アットホームな雰囲気があり、のびのびと生活している姿があった。

<保育者の様子>

- ・1クラスで複数教員の配置があり、一人一人をみとることができていた。
- ・短い言葉での指示や、説明する際の視覚的な提示、ユニバーサルデザインが導入されていた。
- ・生活の中に学びを取り入れている工夫があった。

<検討事項>

- ・年長児の生活面や学習面が、卒園児のゴールの姿としてどんな姿を具体的にイメージしているか、共有していきたい。

■ 児童と園児の交流について

- ・生活科で作成した「秋のおもちゃ」をプレゼント
- ・入学説明会における校舎案内
- ・児童の発表会を見る機会を設け、その後、一緒に活動したり、交流したりする。

■ 特別な配慮を要する園児について

- ・支援を必要とする園児・児童が増加傾向である。保育者と教員が情報共有を密にすることが必要である。
- ・園での様子や支援方法の確認、保護者との連携の仕方など、今後、子どものよりよい成長につなげるための話合いの機会を設ける必要性を感じる。

■ 研修会「特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐ」(R7.2.26 実施予定)

【講師】共栄大学教育学部教育学科 准教授 梶井 正紀 先生

参加者 公立こ：1名、私立幼：2名、私立保：3名、小学校・義務教育学校：9名
生涯学習課、児童福祉課、教育指導課 各1～2名 合計 21名



©桜川市

保育者と教員が顔を合わせて検討したり、意見交換したりする機会をさらに増やしていきたい。幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて、相互授業参観や、参観後に協議をする時間、支援を必要とする子についての情報共有をすすめていきたい。

生活科「秋まつり」から

保幼小連携と「遊び」が育てる「学び」について考える

～体験活動と交流活動の工夫を通して～

大子町

【取組の概要】

幼稚園児を迎えて「秋まつり」を実施するために

- ・町内の公園で落ち葉や木の実、草花を集める。（ボランティアとして保護者の協力）
- ・拾ってきた落ち葉などを活用した秋祭りの準備
- ・園児への招待状づくり
- ・活動写真をもとにしたドキュメンテーションの実施（幼児教育指導資料作成委員として）

■幼稚園との交流学習「秋祭りに招待しよう」



①保護者の協力のもと、広域公園で、秋祭りに使えそうな葉っぱや木の実を拾ってきました。

②拾ってきたものを工夫して活用しながら秋祭りの準備をしました。

- ・おもちゃ作り
- ・招待状作り

主体的・対話的で深い学びの実現を図る

③園児を招待して秋祭りを実施しました。

- ・手作りゲームで交流活動
- ・スタンプラリーやプレゼント
- ・振り返り



■実践をもとにした検討

○保幼小連携に関わる職員合同研修会(R6.7.2)

（参加者）本校 1、2 年担任、特別支援教育部職員、主幹教諭
幼稚園職員、保育園職員 計 12 名

・公開授業（1、2 年）

・合同研修

- ・参観及び見学しての感想
- ・情報交換（学習や生活の様子から）
- ・幼児期で育まれた資質・能力を踏まえた小学校教育

○ドキュメンテーション研修（幼児教育指導資料作成研究事業より）

- ・記録（写真）をもとに活動を振り返り、「遊びや学び」を可視化する。



【まとめ】

保幼小連携に関わる研修を通して、幼児期では、「遊び」を中心として、頭も心も体も動かして学んできたことを共有した。これを受けて、児童期では、「遊びや学びのプロセス」を意識し、相手意識をもって計画的に活動していくことが大切であることがわかった。「秋祭り」に向けた活動の中で、主に「協同性」「思考力の芽生え」「豊かな感性と表現」を育むことができた。今後も幼児期から児童期に向けた円滑な接続に向けて、相互参観や情報交換を定期的の実施していきたい。

生活科「あきとなかよし」

～保幼小連携交流授業の実践～

守谷市

小学校と幼保園の円滑な接続を目指すため、生活科「あきとなかよし」の単元を通して小学生在が幼保園児を招待し「あきまつり」を行った。小学校1年生が幼保園児に自然物で作った秋の遊びを教えたり、おもちゃを一緒に作ったりする活動を通して交流を深めた。

■ 幼保園と小学校の交流授業 生活科「あきとなかよし」

(1) 活動内容

小学生在が「あきまつり」を開いて、幼保園児を招待し一緒に楽しく遊ぶ。

(2) 授業づくりに向けての連携

- ・ 交流活動への依頼（小学校から幼保園へ）
- ・ 情報交換
- ・ 授業のねらいや活動案、準備物等の確認

担当者同士が直接連絡を取り合い、当日の授業に向けた連絡・協議を重ねた。

(3) 実際の授業の様子

小学生在が幼保園児を招待し、秋の遊びを教えたり、秋のおもちゃを一緒に作ったりすることを通して交流を深めた。児童は幼保園児が楽しく遊べるように遊び方を工夫し優しい言葉をかけるなど、自分よりも年下の子を思いやる気持ちが言動に表れていた。幼保園児にとっては活動を楽しむと共に、半年後に入学を迎える小学校での授業体験をすることができた貴重な機会となった。

(4) 小学校教員から感想から

幼保園児を目の前に、遊びの方法や声のかけ方を試行錯誤しながらいきいきと活動する姿が印象的だった。普段は見ることができない表情や言動から児童の成長を感じた。幼保園から小学校への接続がうまくいくように確実に連携を図っていきたい。

(5) 幼保園職員から感想から

半年後に入学を迎える幼保園児にとって、実際に小学校の授業を体験することができてよかった。小学校への円滑な接続に向けて小学校教員との情報共有、相互理解を深めるための交流をすることができ、学びをつなげる見通しをもつことができた。



今回の交流授業を通して、幼保園児と児童が思いを伝え合ったり試行錯誤したりしながら一緒に活動する楽しさや喜びを味わうことができた。来年度は、幼児教育から小学校教育への円滑な接続の充実を図るための研修会や協議会等を充実させていきたい。

小学校と幼児教育施設のよりよい接続を目指して ～授業参観を通して（結城小学校）～

結城市

授業参観、情報交流会などの取組を通して、幼児教育施設と小学校の相互理解を深めていく。特に、小学生と保育園児の交流を通して、小学校への期待や憧れの気持ちをもたせることを期待した。また、職員同士の交流を通して、児童・園児への関わり方を学んだり、情報共有したりする機会として設定した。

■「1年生と年長児の交流」

結城小学校区内にある幼児教育施設から、年長児を招いて、小学1年生と交流する取組である。小学校の様子を絵や劇で説明したり、タブレットの使い方を説明したりして交流を図った。最初は緊張気味であったが、じゃんけん列車などを通して、お互い打ち解けていく様子が見られた。



■「職員間の交流」

保育の場面を目にすることがほとんどない者は、当然、幼児教育施設保育者がどのような言葉かけをし、園児と接しているかわからないことが多い。逆も然りである。このような中で生まれる教育者の認識のずれが、円滑な保育の妨げになることは言うまでもない。

結城小の参観では、教師、保育者が交流を通して、子どもたちへの声かけや見守る場面を観察し、それぞれの学びとしている。

■「実践における主な意見・感想」

○ 幼児教育施設保育者から

- ・コロナ禍で実施できていなかったことが、徐々にできるようになってきてよかった。学校の先生方と交流ができ、これまで以上に活発に意見交換等をしていきたい。
- ・卒園生の成長を見ることができよかった。
- ・園では、靴を座って脱いだり、履いたりできる場所があるが、小学校にはなく、このまま入学したら、昇降口の大混雑を招く原因となりかねない。園での常識が、小学校では非常識になるかもしれないということがわかりよかった。

○ 小学校職員から

- ・先生方の子どもたちへの声かけの方法が、非常に学びになった。
- ・保育の現場を見させていただく機会も作りたい。
- ・入学前に交流できたことで、小学校への不安を少しは解消できたと思う。また、1年生は、お兄さん、お姉さんとしての自覚が芽生え、成長につながっている。

結城小学校に限らず、市内小学校区のほとんどで上記のような活動・交流を行い、情報の共有を図りながら相互理解に務めている。また、保育者と教員が協議する場を設け、教育内容の改善につなげる研修会を実施している。

今後も、架け橋期と学びの連続性について、学校・園職員に広く周知できるよう取り組んでいく必要性を感じる。

令和 6 年度利根町保幼小接続交流事業

～第 1 学年生活科の授業を通した児童と園児の交流～

利根町

利根町は令和 5 年度から小学校が1校となりました。これにより接続コーディネーターと私立 5 園の幼児教育施設園内リーダーの連携が一層深まりを見せています。

今年度は、初めて「町内すべての幼児教育施設の園児との一斉交流」が企画されました。

児童と園児の交流だけでなく、入学後は同級生となる園児同士の交流が図られ、とてもよい機会となりました。

■授業名 第 1 学年生活科 「あきをたのしもう」

- ・場 所 利根町立利根小学校体育館
- ・児 童 利根町立利根小学校第 1 学年児童
- ・園 児 利根町内の全幼児教育施設の年長児

いらっしゃいませ！
「どんぐり玉入れ」たのしいよ！



「どんぐりコマ」
つくったことある？
まわし方はわかるかな？



またきてね！
(入学式で) まってるよ！



なかなかまわらない…
むずかしいなあ～…

これまでは各園の計画で児童との交流行事が企画されていましたが、今年度は、小学校が 5 つの幼児教育施設の年長児を招待する形で交流事業が行われました。

園児たちにとっては小学校での勉強がとても楽しみになったのではないのでしょうか。

今後はこうした取組を「架け橋期のカリキュラム」に反映させてまいります。